令和７年１２月１６日
教育課程部会
外国語ワーキンググループ
参考資料３

５領域の言語活動を中心とした英語授業への転換がもたらした学習成果

～東京都立両国高等学校・附属中学校における
「授業は英語で行う」実践の検証～

東京国際大学
教授　布村奈緒子

TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY

東京都立両国高等学校・附属中学校

Tokyo Metropolitan Ryogoku Junior and Senior High School

明治33年(1900年)　開校　開校125年　１学年８クラス

平成18年(2006年)　中高一貫校(併設型)に　１学年５クラス

３クラス　中学より

２クラス　高校募集

令和5年(2023年)　完全中高一貫校に

現役での国公立大学への進学率が都立トップクラスの伝統校。
学校に対する地域からの信頼は厚く、通塾率は20%程度。

英語の授業に関して

- 伝統的に文法訳読型の授業で大学進学に必要な学力を育成してきた。
- 2006年の中高一貫校化を契機に中学校段階では言語活動を中心とした英語の授業を導入した。
- 中高一貫2期生が高校に進学をした2010年以降、高等学校においても段階的に５領域の言語活動を中心とした授業へと転換してきた。

TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY

東京都立両国高等学校　英語授業改革 (2010年からの歩み)

科目構成

「英語Ⅰ」/「コミュニケーション英語Ⅰ」/「英語コミュニケーションⅠ」　3単位
「オーラルコミュニケーションⅠ」/「英語表現Ⅰ」/「論理表現Ⅰ」　2単位

- 2008年	【英語Ⅰ】 文法訳読型授業 【オーラルコミュニケーションⅠ】 文法参考書と問題集を用いた文法の授業 年９回のみALTとのコミュニケーション活動を中心とした授業
2009年 （中高一貫1期生）	英語で授業を受けた中入生がクラスの3/5を占める 高校の授業の形は変更せず、主に文法訳読型で実施
2010年	【英語Ⅰ】(検定教科書) 年６回のプレゼンテーション・英語で行う言語活動中心の授業に (副教材) 文法訳読型を維持 【オーラルコミュニケーションⅠ】 文法重視・年９回のみコミュニケーション活動を中心とした授業
2013年 (2009年改訂の学習指導要領が実施)	【コミュニケーション英語Ⅰ】(検定教科書) 年６回のプレゼンテーション・英語で行う言語活動中心の授業に (副教材) 英語でのQ&Aを中心とした授業へ変更 【英語表現Ⅰ】 文法中心ではあるが、教科書を用いた言語活動を導入
2014年	JET１名配置、ALTは４名
2015年	JET２名配置、ALTは４名 【コミュニケーション英語Ⅰ】(検定教科書) **年６回の**プレゼンテーション・英語で行う言語活動中心の授業 (副教材) 言語活動中心の授業に変更・コースブックの使用・JETとのTT 【英語表現I】 言語活動中心の文法指導に変更・ディベート導入
現在(2025年)に至る	

TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY

東京都立両国高等学校　英語授業改革 (2010年からの歩み)

科目構成

「英語Ⅰ」/「コミュニケーション英語Ⅰ」/「英語コミュニケーションⅠ」　3単位
「オーラルコミュニケーションⅠ」/「英語表現Ⅰ」/「論理表現Ⅰ」　2単位

- 2008年	【英語Ⅰ】 文法訳読型授業 【オーラルコミュニケーションⅠ】 文法参考書と問題集を用いた文法の授業 年９回のみALTとのコミュニケーション活動を中心とした授業
2009年 （中高一貫1期生）	英語で授業を受けた中入生がクラスの3/5を占める 高校の授業の形は変更せず、主に文法訳読型で実施
2010年	【英語Ⅰ】(検定教科書) 年６回のプレゼンテーション・英語で行う言語活動中心の授業に (副教材) 文法訳読型を維持 【オーラルコミュニケーションⅠ】 文法重視・年９回のみコミュニケーション活動を中心とした授業
2013年 （2009年改訂の学習指導要領が実施）	【コミュニケーション英語Ⅰ】(検定教科書) 年６回のプレゼンテーション・英語で行う言語活動中心の授業に (副教材) 英語でのQ&Aを中心とした授業へ変更 【英語表現Ⅰ】 文法中心ではあるが、教科書を用いた言語活動を導入
2014年	JET１名配置、ALTは４名
2015年	JET２名配置、ALTは４名 【コミュニケーション英語Ⅰ】(検定教科書) **年６回の**プレゼンテーション・英語で行う言語活動中心の授業 (副教材) 言語活動中心の授業に変更・コースブックの使用・JETとのTT 【英語表現Ⅰ】 言語活動中心の文法指導に変更・ディベート導入
現在(2025年)に至る	

英語の言語活動の量を段階的に増やす

TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY

両国高校附属中学
授業フロー

Small Talk

中１：１分、中２：２分、中３：３分
毎時間異なる相手とペアで
会話を継続させる

BINGO

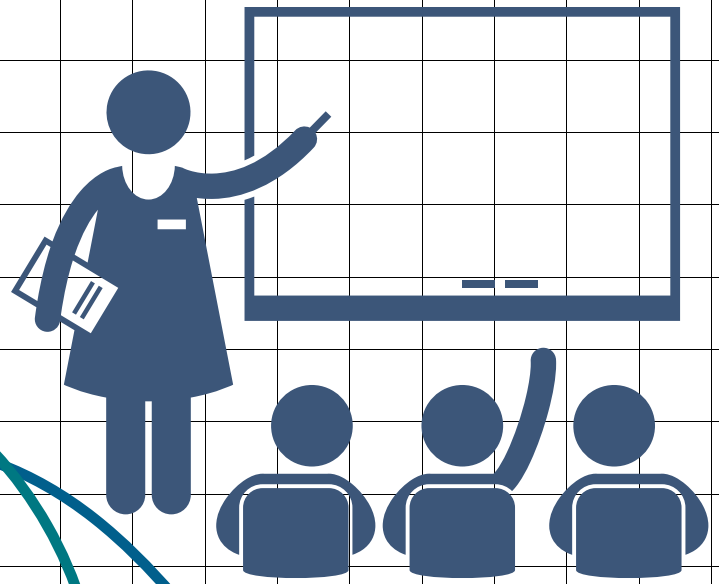
フラッシュカードで新出語
彙の読みを確認後、BINGO
ゲームを行い、音声と文字
を結びつける活動を行う

新出表現練習

PPP(Presentation-
Practice- Production) で
新出表現を口頭練習を
する

ゲーム性のある
インタラクション

口頭練習をした表現を用い
てペアで対戦する



両国高校
「英語コミュニケーション」
授業フロー

Small Talk

毎時間異なる相手とペアで
会話を継続させる

Listen / Read

Four Corners Activity 1

生徒はグループに分かれ、話題についてそれぞれ異なる情報を聞いたり読んだりし、発話に必要な知識や内容を得る（話すためのinput）

Speak

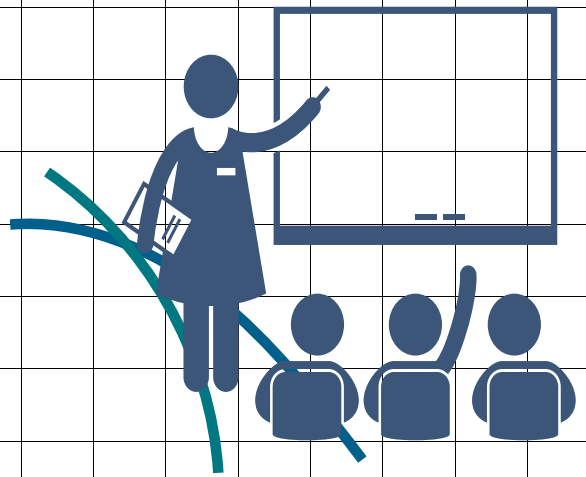
Four Corners Activity 2

それぞれが聞いたり読んだりして得た内容を英語でグループのメンバーに伝える

Write

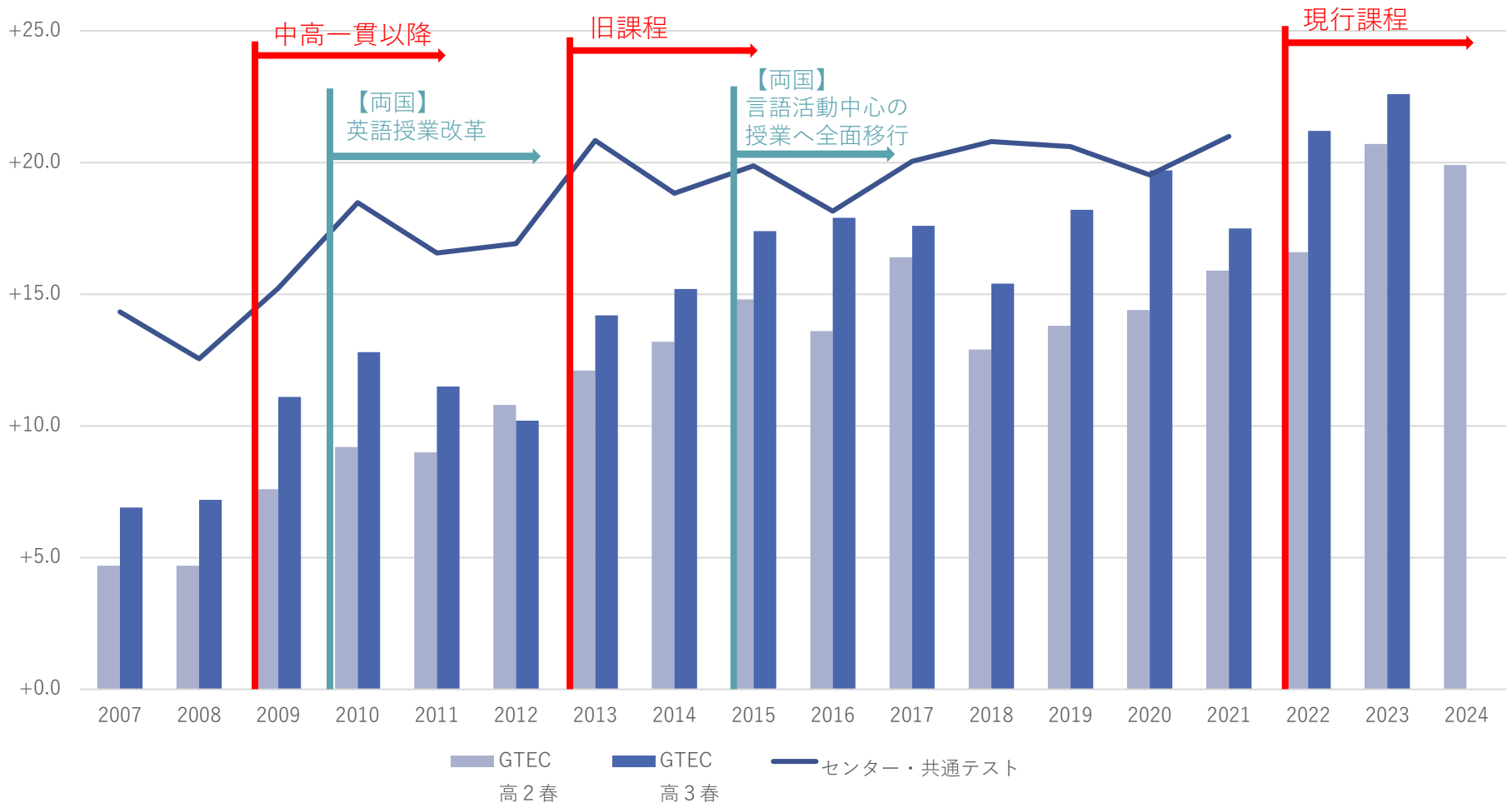
Four Corners Activity 3

聞いた内容をまとめて書く



東京都立両国高等学校　英語授業改革 成果

GTECスコア及び大学入試センター試験・大学入学共通テストの得点推移（100点満点）　2007年入学生～2024年入学生

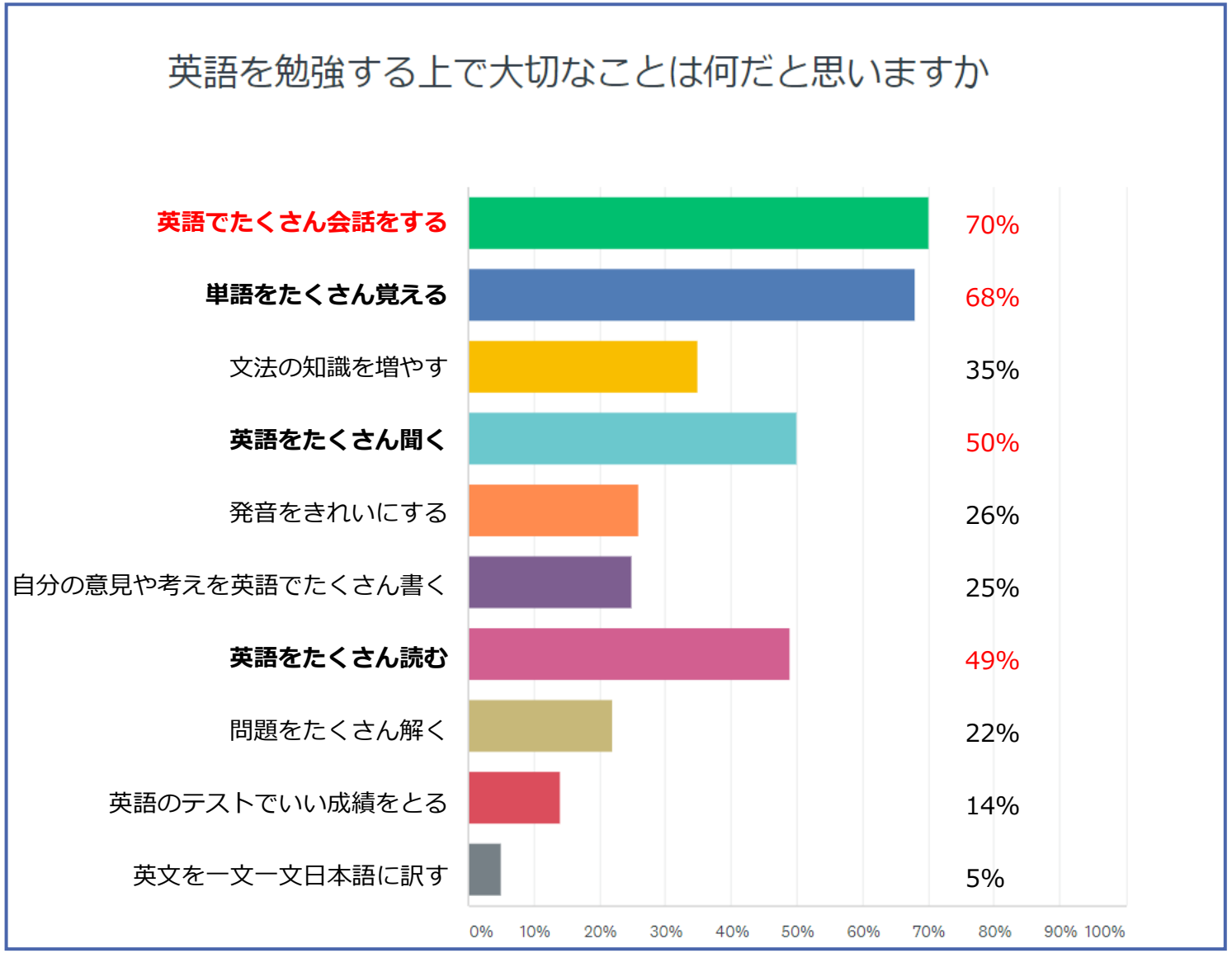


- 英語授業改革を開始した2010年以降GTECスコアは高２・高３共に上昇している。
- 言語活動中心の授業へ全面移行した2015年以降、GTECスコアの伸長が顕著に見られる。
- 大学入試センター試験・大学入学共通テストの平均点も2010年以降上昇傾向にあり、2007年入学生と2021年の入学生の得点を比較すると、平均点は７点上昇。現在も高得点を維持している。

・GTECの受験型と受験時期：2007年入学生から2016年入学生までは、 高２・高３でGTEC Advanced（３技能型）（以下「３技能型」）を受験。2017年入学生は高２で３技能型、高３でGTEC Advanced（４技能型（以下「４技能型」）を受験。2018年入学生以降は、高２・高３で４技能型を受験。
・GTECのスコアの処理方法：３技能型（810点満点）および４技能型（1280点満点）のいずれについても、全国平均点と両国高等学校の平均点をそれぞれ100点満点に換算し、全国平均点と比較して点数差を算出した。
・センター試験・共通テストの得点処理方法：2017年入学生までは大学入試センター試験「英語（筆記）」、2018年入学生以降は大学入学共通テスト「外国語（英語・リーディング）」を受験。全国平均点と両国高等学校の平均点をそれぞれ100点満点に換算し、全国平均点と比較して点数差を算出した。

TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY

東京都立両国高等学校　高校生英語学習に対する意識調査



「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」の授業を言語活動中心の授業で２年間受けた生徒たちの回答（高校2年）　（2016年3月）

生徒たちは、授業内で「英語でたくさん会話をすること」が英語学習において重要であると考えている。

これは授業内に英語による言語活動が豊富に設定されており、生徒自身が「英語でたくさん会話をすること」の効果を実感できているためであると考えられる。

一方で、授業では「英文を一文一文日本語に訳す」活動を行っていないことから、そのような学習方法については、生徒は重要ではないと捉えている。

TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY

東京都立両国高等学校　英語授業改革から見えること

文法訳読型の授業から「授業を英語で行うことを基本とする」　**５領域の言語活動を中心とした授業**へ転換することで、英語力は総じて向上する。これは、大学入試においても有効である。

- 英語による言語活動の量が増加するほど、GTECのスコアが伸長する傾向が見られた。
- センター試験「英語（筆記）」および共通テスト「外国語『英語(リーディング)』」の得点が向上した。

TOKYO INTERNATIONAL UNIVERSITY